野菜を育てよう

時　期	春～秋
時　間	19時間
場　所	教室，教材園

○自分が好きな野菜を選び，育てる。
○世話をしながら野菜の成長の様子を継続観察する。
○収穫の喜びを体感する。

ねらい

親しむ　・野菜の成長の様子に関心をもち，すすんで大切に育てる意欲と態度を育てる。

活動展開例

第２学年　生活「やさいをそだてよう」

準備物	・野菜の苗（教材園用野菜，子どもが自分で育てたい野菜）　・鉢　・土　・スコップ　・じょうろ ・観察カード（時間ごとに記録できるもの）		
	時　間	活　動　内　容	留　意　点
展開	１時間	○どんな野菜を知っているか話し合う。 ○育ててみたい野菜について話し合う。 ・自分が育てたい野菜の種や苗の様子を調べる。	・野菜とその名前が一致するように，予想される野菜の苗や実，写真等を準備しておく。 ミニトマト，ナス，ピーマン，キュウリ，オクラ，えだ豆，じゃがいも，落花生等
	１時間	○野菜を育てるにはどんなことが必要か話し合う。	・野菜を育てるために大切な作業を考えさせる。 水やり，肥料，草取り
	２時間	○野菜の苗を植える前に，畑と植木鉢の準備をする。 ・草取り，うね立て，もと肥等	・教師が一緒に作業し，子どもたちの頑張りを賞賛し，今後の意欲へとつなげる。
	２時間	○育てたい野菜を植える。 ・種まきや苗植え，水やり ○観察カードの活用の仕方を学ぶ。	・教師が共に植えたり世話をしたりしながら，育てることの喜びを感じられるようにする。
	10時間	○野菜の世話・観察をする。 ・水やり ・草取り ・追肥 ・棒立て ○毎時間，成長の様子や変化を，絵や文字で記録する。	・子どもと一緒に野菜を観察したり水やり，草取り等の世話をしたりして，成長を共に喜ぶ。 ・野菜も自分と同じように成長し，変化していくことに気付かせる。 ・以前の野菜の様子（観察カード）と比較させ，変化したところを見つけられるようにする。
	２時間	○野菜の収穫をする。 ・収穫した野菜を観察する。 ・収穫した野菜を食べる。	・野菜の成長と世話をしてきた喜びを，自分なりの方法で表現させる。
	１時間	○活動を振り返る。 ・野菜の世話と成長の様子を振り返る。 ・ノートに感想等をまとめ発表する。	・これまでの記録（観察カードや記録写真）を整理しながら，その時々の様子や気持ちを整理させる。

低学年

活用ガイド

○活動の様子

苗の植え方の説明を聞く

草取り

さつまいもの収穫

やきいも会

○ワンポイントアドバイス

・子どもに自由に育てたい野菜を選ばせ，育てていくことにより，興味・関心が持続し，子どもの思いや願いが反映される。
・教材園において学年全体で「さつまいも」や「じゃがいも」「さといも」「落花生」「トマト」等も植え，近隣の農業の専門家の指導・協力を得て育て，収穫時期ごとにそれぞれの野菜を食味体験できることが，子どもたちにとって魅力的であり，継続して世話をすることで大きな喜びが得られる。
・10月には「さつまいも」を収穫し，保護者と共に「やきいも会」を行い，１年生を招待して一緒に食べることで，１年生の次年度への意欲付けにつなげる。

低学年

○活動の広がり

・教材園で育て収穫した「さつまいも」は学校栄養士と相談の上，「さつまいもシチュー」「大学いも」「いかとさつまいもの揚げ煮」等，給食献立として全校生に食べてもらい，みんなに喜んでもらえることで，収穫の喜びがさらに高まると期待される。

○他教科，領域等での活用

・国語「作文」，図画工作「絵画」に活用できる。

○協力者

・近隣の農業の専門家　・学校支援ボランティア　・保護者

○実施した効果（活動を振り返って）

・野菜を育てることで農家の方の苦労を知ったり，野菜をはじめとする食べ物を大切にする心がもてるようになったり，調理する人を思いやったりするようになった。野菜を育てている祖父母の手伝いをしたいという児童も増えた。他の植物にも関心をもち，花の水やりを現在も熱心に行っている児童が多い。
・自分たちが苦労して育てたものをいただく経験，同校の児童が育てた野菜を食材とした給食をいただく経験が，より身近に食を感じ，苦手だった野菜を食べられるようになったり，よりおいしく大事に食べたりすることにつながった。
・第２学年の生活科での野菜育ては，農家の方に直接指導を受けながらの活動だったので，その苦労やすばらしさを大いに実感し，理解や関心を深めることができた。

本プログラムの作成において参考とした文献

○「わたしがそだてる　くさばな　いきもの　ずかん」　青葉出版
○篠原　温　『遊んで学ぶ野菜の本５「ベランダは野菜畑」～おいしい野菜をつくろう～』
偕成社（2001）